



北京語言大学 日本語学科学生
私にとって友愛とは

2020年版

公益財団法人 友愛 編

北京語言大学「友愛講演会」奨学金対象感想文
私にとって友愛とは 2020年版

∞ ∞ ∞ 目 次 ∞ ∞ ∞

感想文	友愛賞	楊稼溪	1
	第二位	单增	3
	第二位	張若玥	5
	第三位	王广鑫	7
	第三位	付嘉雯	9
	第三位	肖岩	1 1
	第三位	陈瑞锟	1 3
	入 選	秦楚哲	1 5
	入 選	陳旭玉	1 6
	入 選	赵逸群	1 8
	入 選	黃寧慧	1 9
	参 加	侯宇楠	2 1
	参 加	桑卓雅	2 2
	参 加	許宇佳	2 3
	参 加	李嘉名	2 5
	参 加	李樂怡	2 6
	参 加	张国成	2 7

私にとって友愛とは

杨稼溪（2年生）

去年の冬のある日、鳩山由紀夫先生をはじめ友愛協会の方々とお会いしました。寒い冬でしたが、鳩山先生の暖かい言葉が心に残り、友愛に対する考え方も新たにしました。

かつて私にとって友愛とは、自分を犠牲にした「仲良し」でした。友達と仲良くするために相手の価値観、趣味に合わせて嫌なことも我慢してきました。結果私が困ったとき、助けが必要な時に手を差し伸べてくれる友達はいませんでした。

今私が理解する「友愛」とは武者小路実篤さんが書いた：「君は君、我は我也、されど仲良き」という言葉に似ています。お互いの考え方や好み、そして歩む人生は違います。しかし、お互いの「違い」を認め、尊重する姿勢があって初めて絆を結ぶことができます。今私と友人は随分異なっていますが、私たちはお互いに尊重し、とても仲良くしています。私たちが一緒に過ごした時間は、楽しいだけでなく、切磋琢磨し、学ぶことがたくさんあります。みんなそれぞれの強みや弱みがあるからこそ、互いに補い合うことができるのです。

そして、尊重し合うだけではなく、私たちはそれぞれの道を歩みつつ、必要なときは互いに助け合います。なぜなら、人間は他人の協力を得て生きています。しかし、助けてもらってばかりもいけません。個人として自立しなければならない、自分の運命は自分で決めなければならないからです。そして、国と国の関係も例外ではありません。国家は国民を守り国益を求めるのは当然なことですが、他国を尊重し、協力関係にあるべきです。これらが鳩山先生がおっしゃった自立と共生の原理だと思います。

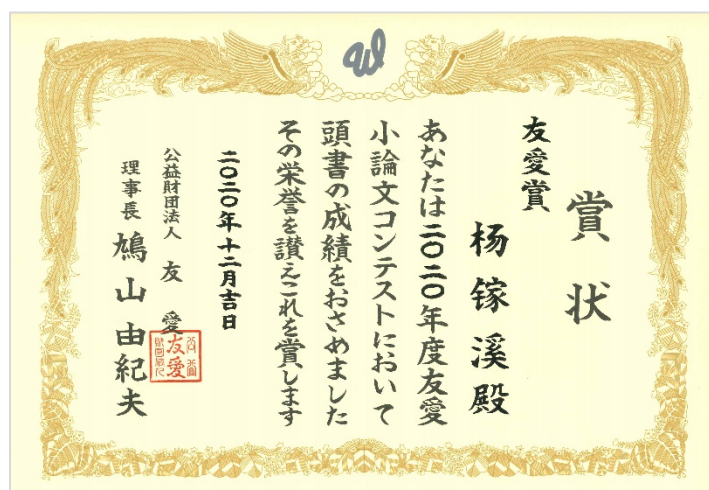
中日は国交を樹立して以来、良い関係にある時、またそうでない時がありました。しかし、武力によって平等を押し付けるのではなく、話し合いで尊重を求め合った関係は変わったことはありません。

さらに、“患难见真情”と言うことわざがありますが、日本語では「まさかの時の友こそ真の友」と言います。2011年、日本を襲った東日

本大震災の際に、中国は躊躇わず支援をしました。今年の新型コロナウイルスの際に、日本が物質不足であっても、鳩山先生は中国に100万枚のマスクと武漢へ励ましのメッセージを送っていただきました。

「山川異域、風月同天」の通り、場所が離れていても、同じ風を感じ、同じ月を眺め、同じ空の下にいる私たちの心は一つです。これは友愛精神そのものだと思います。

私は「違い」を理解し、尊重する勇気を持ち、さらに、そこから互いに学んでいきたいと思っています。これから出逢う人たちにこの友愛の精神で向き合えば、強い絆、大きな可能性、そして自身の成長になると信じています。



私にとって、友愛とは

单増（2年生）

新型コロナウイルスの影響で、友達と会えなくなり、今学期は学校に帰ってクラスメートと一緒に授業を受けることはできなくなりました。しかし、新型コロナウイルスの感染が拡大しているこの期間、中日友好はより固い絆にむすばれていると感じました。

前学期に鳩山先生の友愛に関する講演に参加することができてとても光栄です。先生は国家、政治、経済などの角度から友愛の精神の大事さを伝えてくれました。友愛の精神は自由、平等と尊重であることが分かりました。私たちは相互尊重、相互理解、相互扶助の友愛社会を構築すべきなのです。また、先生は「自立と共生」の理念を述べ、自分の個性を持つと同時に、他人や他国のも尊重するということを指摘しました。とても勉強になりました。

鳩山先生の講演の後、自分なりに考えた友愛とは、国、民族、性別、年齢などの差別がないということです。私たちは友達や仲間との間につり合いのとれた関係を築くことが大切だと思います。

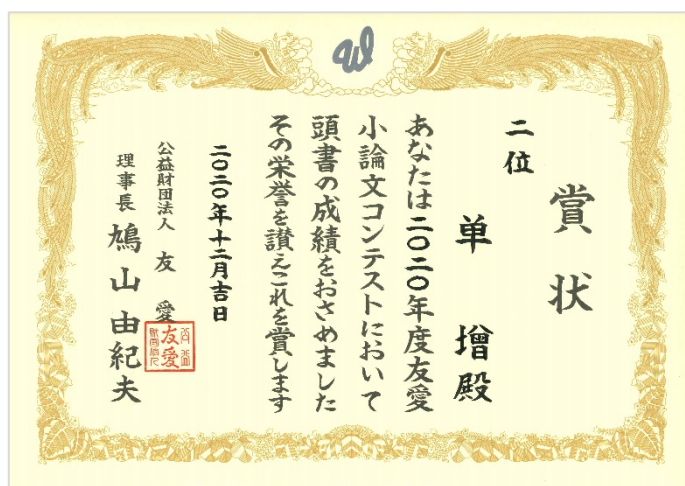
友愛という言葉から、私は友達とのことを思い出しました。大学一年生の時に日本人の友達と知り合いましたが、まだ日本語初心者だったので、彼女とたくさん話ができませんでした。そのとき、私たちの交流はここで終わったと思いましたが、そのあと、彼女から連絡がありました。中国語を勉強したいと言われたのです。私が中国語を教える代わりに、彼女と日本語を勉強することもできます。私たちは学習パートナーになり、ほとんど毎日一緒に食事をするようになりました。

彼女は卒業して帰国しましたが、私たちは今でも相変わらず連絡を取り合いながら、勉強について話したり、面白い日常生活を話した

りしています。特に今回のコロナウイルスのことでは、毎日のように連絡を取り合い、相手の体調を気遣ったり、健康に注意してほしいという思いを伝えたりしています。今、私たちには、それぞれ別の友達もいて、お互いのそばにいるわけではないのに、お互いのことを忘れたことはなく、この友情を宝物のように大切にしています。これこそ友愛の精神なのではないでしょうか。

中日両国の間には、古くから多くの民間大使がミツバチのように行き来し、苦勞をいとわずに両国の友好の実を結んできたという歴史があります。中国の諺に「孤雁南飛、孤掌鳴き難し」というのがあります。今回の講演を通じて、友愛はリレー競走の時の小さなバトンのように両国の友情をしっかりと結んでいると思います。そして、中日両国は相互自立と共生の関係の中で絶えず進展していると強く感じました。

両国の言語に対する学習と積極的な交流を通して、私たち青年が中国と日本の新たな友好発展の架け橋になることを確信しております。



私にとって友愛とは

張若玥（2年生）

友愛とは、いったいどういう意味なのでしょう。鳩山由紀夫先生の講演を聞く前まで、「友愛」という言葉が、ただ単に友達に対する愛として捉えられていました。しかし鳩山先生から「友愛とは自立と共生だ」とお聞きして、私は友愛の意味を考え直しました。

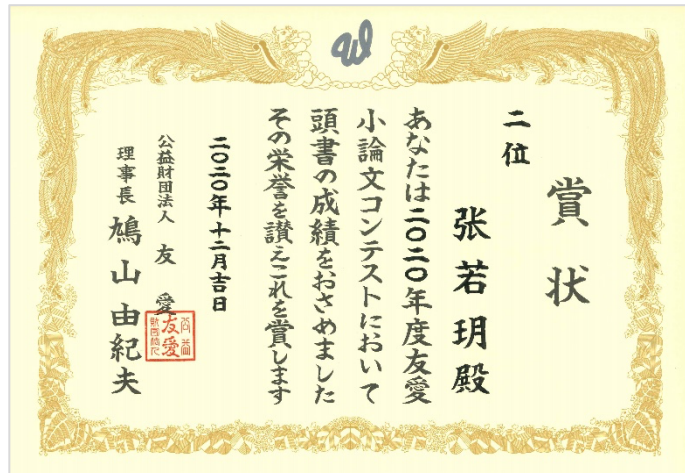
講演会で鳩山先生は、構築すべき社会の姿は一人ひとりを多様な個性を持つかけがえのない存在と認めた上で、互いに助け合って共に生きる「友愛社会」と説き、「友愛社会」の目標を達成するために、この自立と共生という二つの要素が不可欠だと主張されました。また、「自立とは自己の尊厳を尊重することで、共生とは他者の尊厳をも尊重する精神だ」と強調されました。すなわち、友愛は自己を確立し、自らの考えに基づいて判断批判するとともに、相手との共通点を探し合い、お互いに理解し支え合うということです。

友愛というのは、人と人だけでなく、国と国、人と自然などにもあると思っています。われわれは現在、「地球村」という人類運命共同体の時代に生きています。これは新型コロナウイルスとの闘いからはっきり現れています。日本から中国に送られた支援物資に漢詩が書き添えられたことがネットで話題になりました。「山川異域、風月同天」や「青山一道同雲雨、明月何曾是兩鄉」はわれわれ中国人に漢詩のすばらしさ、中日の強い絆、感謝、感動をもたらしました。現在新型コロナウイルス感染症は依然として世界規模で急速に蔓延しており、命を守るという考え、行動が中国と世界を緊密に結びつけています。今もなお中国は世界の国々と感染防止・抑制に関する情報を共有しています。これこそが鳩山先生のおっしゃった国と国の「友愛」ではないかと私は考えています。

新型コロナウイルス感染症の大流行は環境危機を無視し続ける人類への警鐘と捉えるべきと考えています。人類は私利私欲のため、環境破壊を繰り返しました。その結果、オーストラリアを襲った山火事、北極の氷の融解による水面上昇、世界各地で相次いでいる洪水被害、

絶滅危惧種の増加を引き起こしています。これらの問題を解決するために人類は自然に対する友愛を持つべきだと思います。たとえば、日常生活の中で、自転車を利用する、買い物へ行くときはマイバッグを持つ、北京や上海などではゴミ分別に積極的に取り組むなど、これも鳩山先生が説く「友愛精神」の一つではないでしょうか。

日本語学習者としての私は、中日の架け橋となるべく、「友愛社会」の目標を実現するために貢献していきたいと思います。今の私は友愛に対する理解はまだ十分とは言えませんが、実際の行動の中で友愛精神を実践しながら、理解を深めていきたいと思います。



私にとって友愛とは

王広鑫（2年生）

先日、鳩山由紀夫先生が北京語言大学にいらっしやい、友愛についての講演をしてくださった。私は鳩山先生の講演を聞くまでには、友愛とは一体どのようなことかと深く考えたことはなかった。

友愛とは何であろうか。笑っている顔？心を温かくする助け？それとも、貧乏な人にあたえるお金？以前はそんなに深く考えなかった。鳩山先生は自分を尊重する「自立」と他人を受け入れる「共生」などをおっしゃっていた。人はまず自分を愛して、それから他人を愛することができる。私はそう理解した。

辞書によると、友愛とは、「兄弟間の情愛。また、友人に対する親しみの情」という意味だ。つまり、兄弟の間の感情、または、兄弟のような友人に対する感情。しかし、私からすれば、友愛は兄弟間の感情ではない。なぜなら、兄弟は相手のことを知り尽くしているからだ。私にとって友愛は、友達や友人の間のことを表している。友人の間では一定の距離があり、その距離があつてこそ、お互いに尊重して、お互いにプライベート空間を守れる。友愛は友人間のことである。そこまで親しくないが、うれしいときはそのうれしさをシェアし、悲しいときは互いに支えて乗り切る。そんな友達が一人二人ぐらいいれば幸せなことだと思う。

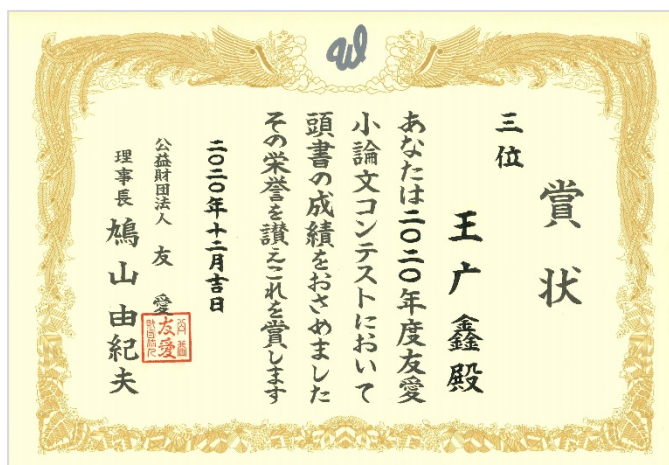
私は、2019年の夏休みに北陸大学の夏季コースに参加した。それをきっかけとして日本に初めて行った。その時、いくつかのことから、外国人の私には異国であっても、人々は親切だというイメージを抱いた。到着するとき、寮のスタッフは私がシャンプーを持っていないことを知り、自分のシャンプーなどまで貸してくれた。私は帰国する日にそれを返した。日本に到着したばかりのことだが、日本人が外国人に対する親密さを感じた。そのあと、買い物でも、遊びでも、知らない人たちがいろいろ熱心に教えてくれた。これは、人と人の友愛だと思う。

2020年は中日青少年交流促進年だが、新型コロナウイルスの影響

で、様々な国際交流活動を中止しなければならない状況になり、経済活動や日常生活も大きな打撃を受けた。中国で新型コロナの感染拡大が一番厳しい時、日本からは大量の援助物資が送られてきた。日本の各空港や観光都市のマスク売り場では、「中国 頑張れ」「武漢 頑張れ」というスローガンが張り出されていて、日本青年発展協会が出したマスクや体温計の包装箱には「山川異域、風月同天」という漢詩が書いてあった。これらの言葉は中国のSNSに話題になり、おおくの中国人の心を温かくさせた。そして、日本が新型コロナウイルスの影響を受けたとき、中国からも多くの物資が送られた。その中には、例えばアリババ基金が日本に寄付した100万枚のマスクもあり、物資の梱包箱には、「青山一道、風雨同担」と書いてあった。これは、国と国との間の友愛ではないか。

友愛とは何だろうか、今の私には、その答えが分かる。友愛とは、物事に対する友好的な扱い方だ。それは、お互いに共通点を探し、競争性を良い方向に引導して、ウィンウィンであるような好循環にすることだ。大山に向かって「嫌いだ」と大声で叫んだら、山は「嫌いだ」と答える。しかし、「好きだ」と叫んだら、その答えは「好きだ」になるということだ。

そういう気持ちをもって、未来への道に歩いて行こうではないか。人と人だけではなく、国と国、また、人間と自然との間を友愛の精神で貫いたなら、きっといい環境が作れるのではないか。一人のやれることは僅かだが、塵も積もれば山となる。日本友愛協会のマークのように、YouとIに通じて、WeになりWorldにもなれるはずだ。



私にとって友愛

付嘉雯（2年生）

小学生の時に、先生から友愛を表す詩を教えてもらった。李白の詩であった。

「桃花潭水深さ千尺、及ばず汪倫が我を送るの情に」

なぜ騙された李白は汪倫に詩を書いたのか？先生に聞いた。それは騙されたのだが、彼の真心に感動したからである。汪倫の温かみを感じ、彼の心とつながることができたのである。真心で相手と付き合い、相手の真心と友愛を感じるができる。

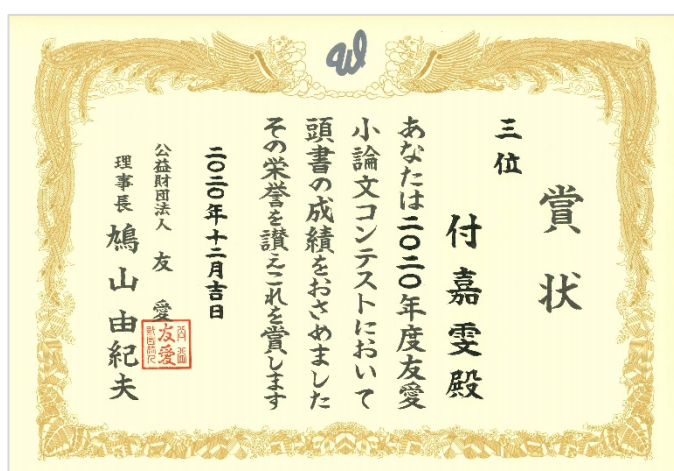
去年の八月、日本で一か月間の短期留学をした。大学で授業を受けたり、日本人のサポーターと話し合ったり、ホストファミリーと遊んだりした。それは私にとってとても貴重な経験だった。実は、日本に行く前に大変緊張していたのだが、実際に向こうの学生や住民と交流しはじめたら、その緊張はすぐになくなった。なぜなら、彼たちの真心と友愛を感じたからだ。

しかし、今の世の中には、真心の付き合いは少なくなっている。「大人というものは寂しいものだ」という話がある。誰に対しても礼儀を守るべきであるが、それのみでは友愛本来の熱情が希薄になってしまう。愛し合うなら、愛をちゃんと伝えなければならない。「人間」というものは、ほかの人と関係を作って生きていくものだ。言い換えると、人間は友愛がなくしては生きていくことができない。

そして、人間関係だけでなく、国際関係も同じだ。今の世界はより一層小さくなったと感じる。グローバル化のおかげで、今の私たちはいつの時代よりも強くつながるようになったが、いつの時代よりも疎遠になっているのである。ネット社会に私たちは様々な情報を取りやすくなるけど、お互いへの理解は深くなることができなくなる。不協和音を奏でることがよくあり、誤解を起こることも多い。この上ない哀しみを感じる。けれども、今年新型コロナウイルス感染拡大で、世界は大きな打撃を受けながらも、国籍、民族を問わず、人間本来の暖かさを引き出した。日本からの防疫物資に書かれていた「山川

異域 風月同天」という文字もこういう友愛の暖かさを表している。山や川国土は異なるろうとも、風も月も同じ天の下でつながっている。中日両国は一衣帯水の隣国であり、二千年にわたる中日交流の歴史の中には、緊密で現実的な関連もあれば、歴史的な恩讐もあった。両国の国民は歴史を忘れずに、新しい未来を探さなければならない。これからの世界はどこへ行くのかまだわからないが、微力ながら、真心で人々の笑顔を願い、友愛の溢れる世界を作ってみよう。

花を折りて馭使に逢う、寄せて隴頭の人に与え
江南有る所無し、聊か贈る一枝の春。



国は違うけど、心は一つだ

肖岩（3年生）

以前、「友愛」って、なんだと思いますかと聞かれたら、友達同士の友情だろうと答えるかもしれない。しかし、今年、全世界にとって極めて特殊な時期に、私の「友愛」に関する考え方が変わった。

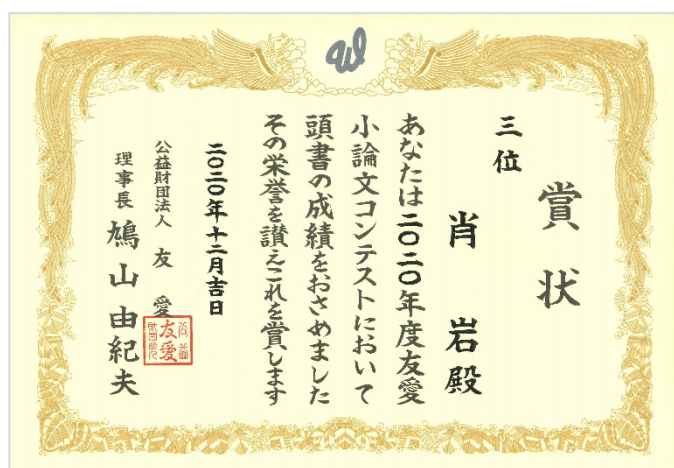
この冬、私たちはどこから来たのかわからない新型コロナウイルスと初めて出会った。コロナウイルスが猛威を振るった感染の中心地、武漢では毎日多くの命が奪われてしまった。

あのころ、私は交換留学生として、まだ日本にいた。帰国するまで1週間を切った時、武漢が封鎖されるというニュースを見た私は、家族のことが心配でしがたがなくて、帰国するのが待ち遠しくなった。日本人の友達も心配そうな顔でした。早く帰りたいと言ったところ、翌日、友達はわざわざマスクを持って来てくれた。そして「しょうちゃんどうしても帰りたい気持ちはわかるよ。」と言った。1週間後、帰途につくことになった、友達は名古屋空港まで見送ってくれ、「しょうちゃん、ちゃんとマスクをしてね、コロナが収まったら、絶対会おうね、約束だよ。」と涙ながらに言った。その瞬間、国境を超えた「友愛」の意味がわかった。

帰国すると、中国はマスクや防護服などの感染症対策物資不足などの問題に直面していることに気づいた。感動したのは、中国は日本各地からの支援を受けたことだ。日本が中国へ寄贈した感染症対策物資には「山川異域、風月同天」という文字が印刷されていたことは今でも印象に残っている。この詩も中国のソーシャルメディアで多くの人に繰り返し投稿され、日本社会各界が中国にくれた様々な支援と同じように、中国の人々の心に深く刻まれることになった。悲しいことに、まもなくして日本でもコロナウイルスの感染が爆発した。中国政府と社会各界は日本にマスクなどの感染症対策物資を寄付した。同様に、「鴻雁北一衣帯水の絆」と支援物資の箱に示され、「山川異域、風月同天」が意味する、離れていても同じ空

の下で呼応しているというメッセージも刻まれた。私も感染症を前にして、中国と日本はこの困難な時期を乗り越え、平和な日常を取り戻せるように、心を同じくし、運命を共にし、頑張ってきた姿に感動させられた。

この特殊な時期に、私は初めて「国は違うけど、心は一つだ」という話がわかった。初めて国境を超えた「友愛」の力を感じた。さらに、「友愛」というものは、友達同士の間にあるだけではなく、国と国の間にも存在しているのではないかと思うようになった。日本語学習者として、私は日本語を勉強することや日本人との交流を通して、我々の善意と友情を伝え、日中友好に貢献していきたいと思う。



友愛は自分の心から生まれ、香りが遠くへ広がっていく —私の心の友愛

陳瑞鋌（2年生）

私の考える「友愛」は中国の儒家哲学で言われる「性向善」とだいたい同じです。つまり、私達が人として生まれて、善行に勤しむ可能性があると思います。友愛の観念を持つことができれば、何事にも挑戦し、現在の激動とチャンスが共存する世界に生きることができます。友愛という行為ができるなら、周りの人を感動させ、この美しさを世界に伝えていくでしょう。

鳩山先生が去年12月に北京語言大学にいらした時の講演は今でも記憶に新しいです。鳩山先生はこの演説で、友愛の精神は自由、平等、尊重であると述べられました。このような友愛は、私たちが他人と付き合う時だけでなく、国と国の間にも適用されると思います。

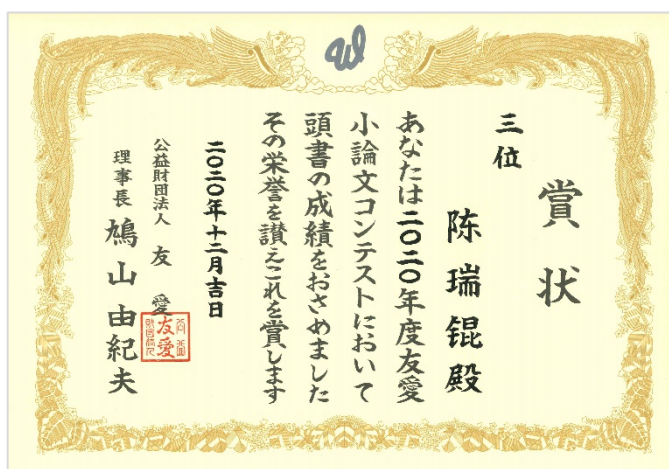
それから、友愛と友愛を実現するのは簡単ではないですが、友愛は私たちが生んだ人間の本性であり、私たちの心の奥底に根付いているのです。東洋の価値観は西洋の価値観と違って、人の本性が悪だとは信じられていません。キリスト教の教えのように、人は神を裏切ったのではなく、孔子と墨子のように修行に励み、仁愛と兼愛の精神を求めています。中国の学者費孝通がかつて「それぞれの美、美人の美、美と共、天下は大同」と残したように、これは私達が今日提唱した友愛そのものではないでしょうか。特に大学に入ると、自由で、開放的、また平等です。世界各地から来た人々がここに集まって、それぞれ違った思想と性格を持っていますが、それは決して私たちに学術と知識に対する誠実な心を持つことを妨げていません。私たちは「異なる者」を拒んではいけません。他人を友愛し、心から他人の美を鑑賞し、平和を求めることが大切です。

国と国の間にも友愛ができれば、私たちの世界は調和が生まれます。特に中国が近年提唱した「一带一路」は沿線諸国の支援、合意を得ており、これは友愛の最高の解釈ではないでしょうか。今の世

界はもう三十年前の冷戦時代ではなく、多国籍企業の発展に伴い、各国のサプライチェーンが緊密に連携し、どの国も世界経済に重要な役割を果たしています。私達は友好的な観点を持って、世界各国と交流するべきです。お互いの違いを尊重し、共に発展することによって国民に幸福をもたらすことができます。

もし、私たちが心の中の友愛を見出すことができるなら、友愛はきっと花のように咲きます。花は田圃や池に盛られても、崖の上においても、風に吹かれて香りを遠くまで運びます、またその香りを人に届けることもできます。このように友愛の花は他人を鼓舞して、また一緒に友愛し、この美しさをもっと遠いところに運ぶことができますと信じています。

友愛は花のように、心を豊かにして、きっと香りでいっぱいになると信じています。



「友愛」は「友」と「愛」

秦楚哲（2年生）

中日の間の友愛とはどのような関係なのでしょう、「友愛」の二文字を分けてみると「友」と「愛」です。友は友人の関係を示しています。「愛」は何かを守るということを表しています。「友愛」というのはやはり友を大切にすること、その友情を大切にすることでしょう。

中国と日本は昔から隣国として、長い間交流が続いています。中国の漢の時代から現代まで、お互いに勉強しあった時もありますが、絶交したり戦争したりしていた時も少なくありません。この関係をどう扱うべきかという問題は中日両国の政府だけでなく、中日の民衆にとっても大切なことです。

でも、この関係をどう維持していくのかはいつも問題になっていたようです。

中国の隋の時代、日本では飛鳥時代に国家の合理化を求めている日本は隋と正式な国家関係を求めたこともありました。しかし、歴史上には皇帝に拒絶されたこともあったのです。また、中国の清の末期、日本の昭和時代には、国力が衰えた中国が植民地化されたこともあります。長い間、いつも国力が優っていた方が関係をきめてきたことがよくわかります。でも、国交とはそういうものではありません。国家の間でも友のように相手を大切にすべきなのです。つまり「友愛」を貫くべきなのです。

友だちの間なら価値観が違ってもお互いに理解し合い、お互いの発展を望んで手を組んで前に進むことができます。これも鳩山先生が強調し続けていることです。特に通信や交通が急速に発展している今、民族の距離が無限に近づいています。価値観、世界観、人生観がいたるところで強くぶつかっています。この現状を破りたければ、「友愛」ということが必要になってくるでしょう。でも、「友愛」とは友を大切にすることなのですが、いったいどうすれば友を大切にしていると言えるのでしょうか。このような感じになったことはあり

ませんか。ある友だちととても仲が良かったのに、突然なにかわからない原因で自分から去ってしまうことが。昔のソ連と中国もそういう時期がありました。だから、「友愛」というのは決して無理に相手に近づくことではありません。また、ただただ相手を助けること、あるいは相手に助けられることではありません。それは自分で前に進みながら、相手と共に何かお互いの国家、民族に役だつことをすることなのです。こうして見ると中国の思想家の荘子がいった「君子の交わりは淡きこと水の如し」、このことこそが友愛の真髓だと思います。

前述のように今の中日関係はまだ「友愛」の状態ではないと思いますが、ここから、みんながそれぞれ自分の力を尽くすことで、中日関係がよくなるように発展していけたらいいと思います。

「助け合い」、「繋がり」、「輪」

陳旭玉（2年生）

昨年12月、鳩山由紀夫首相の講演を拝聴した後、「友愛」とは何かと考えるようになりました。

友愛の内核は「友愛精神」と思います。鳩山首相によりますと、「友愛精神」は自由であり、平等であり、尊重でもあるという。人間は平等であり、自分の意識で自由に生きており、どんなことにあっても、お互い敬い合い、助け合うことによって、全世界の人が繋がっています。

当時実感がありませんでしたが、新型コロナウイルスを経験した後、この友愛精神の大切さがはっきり分かりました。

中国では今年は「崩壊の一年」と呼ばれています。新型コロナウ

ウイルスによる感染拡大で、数多くの尊い命を失いました。一人でも多くの命を救うため、自らの命を顧みず最前線でウイルスと闘った医療関係者や警察、労働者の姿を見ていました。それだけでなく、姿こそ見えませんが、中国全国各地から武漢市にマスクや医療用具、生活用品、新鮮な野菜に至るまで支援をする方々を見ました。

中国人民は「助け合って」困難を乗り越えました。これは1つの友愛精神です。

また、この友愛精神は、あらゆる壁を取り払い、世界を繋げる力があると思います。ウイルスの感染拡大を受け、日本やロシア、パキスタンなどの国からの支援物資が届きました。中でも中国語検定試験「HSK」の日本事務局が湖北省の大学などに支援物資を送りました。その箱には、「山川異域 風月同天」の漢詩が記されていました。これを見た中国のネットユーザーは感謝するとともに称賛しました。「山川異域 風月同天」、「住む場所は異なるろうとも、風月の営みは同じ空の下で繋がっている。」この意味から「繋がり」という友愛精神を感じました。

また日本で8年前から中華料理店を営む李星海さんはウイルスの影響で、厳しい生活を送っている人達のために、一日当たり500食のお弁当を無料で提供しています。赤字が続いてもこの支援活動続ける李さんの姿に多くの日本人が感動し、自分にできる方法で李さんを応援しています。これは友愛の「輪」かもしれません。李さんを中心に友愛の輪が広がり、日本人、中国人関係なく友愛の輪は今もどんどん広がっています。

世界には約70億の人間がいます。それぞれ人種、文化、宗教、環境が異なります。多様性を求める反面、それが壁になり、先日のアメリカのような人種差別にも簡単に発展してしまいます。しかし私が感じた友愛精神、「助け合い」、「繋がり」、「輪」を大切にすれば日中のみならず世界が平和に一步近づくと私は信じています。

コロナ禍の中の友愛

赵逸群（3年生）

「まさかの時の友こそ真の友」ということわざがある。それを裏付けるのは、コロナ禍の中に見られる友愛である。新型コロナウイルスと闘う中、友愛の精神があちらこちらで見られる。

2019年の中国は例年の中で特に変わったことはなかった。年の暮れを間近に控え、人々はいつも通りに、忙しいながらも充実した日々を繰り返すと同時に、帰省のためのチケットを予約したり、久しぶりに旧友といつものところで一杯飲みに行こうと約束したりした。新年を迎えるめでたい雰囲気は漂う中、ある災いがひそかに訪れようとしているとは誰も気付いていなかった。12月末頃には、武漢華南海鮮卸売市場で原因不明の肺炎の感染が何例も確認された。初病例が確認されてから僅か2ヶ月で、中国での感染拡大はとどまるところを知らず、感染者数が五桁にも上っていた。

その深刻な事態を受け、ウイルス蔓延を封じ込めるため、武漢がロックダウンされ、市内の交通機関も全て見合わせになった。親戚訪問やビジネス上の原因などで武漢を訪れた人は、都市封鎖によって武漢に長期滞在する羽目になったケースもあれば、封鎖された前に武漢から逃げ出す機会があるのに、感染拡大に拍車をかけないように、そのまま武漢に残って自己隔離することにしたケースも数多くある。友愛の精神というのは、こういった他人のことを思いやる優しい行為なのではないか。

また、感染拡大が続く中、全国各地から「逆行」して湖北省の医療現場に駆けつける医療従事者の姿が目立つ。より多くの人を助けようと、最悪の可能性を覚悟した上で、家族と別れを告げ、躊躇もせずに感染拡大防止の第一線に駆けつけ、ウイルスと立ち向かっている彼らの姿に感心する。これは、友愛でなくてなんだろう。医療に携わる人だけでなく、交通警察や物流関係者、そしてワクチンの開発に取り組んでいる科学者など、各界の人々は手をつなぎ、黙々と武漢さら

に中国を守っていた。

国内から援助をもらったほか、海外からの支援物資も湖北省各地に届いた。「山川域を異にすれども、風月天を同じうす」。日本から届いた支援物資に添えられた応援メッセージが中国で大きな話題になっていた。それに、中国駐日本大使館のサイトには、日本のネットユーザーから「中国頑張れ、武漢頑張れ」のような書き込みも多く寄せられたそうだ。三月下旬になると、感染状況は回転しつつある中国は、厳しい状況にある日本にマスクや防護服などの医療物資を送り、「倍の恩返し」を果たした。これで、中日間の友愛な絆がより一層深まった。

世の中は持ちつ持たれつだ。人は人を頼って頼られて生きていくものであり、国同士も同じである。グローバル化が進んでいる中、中日両国も利益共同体にあり、「困ったときはお互い様」という言葉があるように、困った時こそ、真の友愛が見えてくる。やまない雨はなく、晴れる日は必ずくる。このような友愛はポストコロナ時代にも続いてほしい。

私にとって友愛とは

黄寧慧（4年生）

友愛は少し抽象的な概念であるため、人によってそれぞれ解説が違う場合がある。そのため、具体的に説明するのは非常に難しい。ところで、今年、世界各国や社会各界は新型コロナウイルスで苦しんでいる。しかし、皆が協力して人類の共同の敵、新型コロナウイルスと戦うことを通じて、私は切実に「友愛」の暖かさを感じた。

2020年1月末、北京から実家に帰ったばかりの私は、歴史に残る人類の危機が迫ってきていることなどを思いもしなかった。2月、新型コロナウイルスが報道されると、瞬時に話題になった。恐怖と不安

にかられ、毎日ウェブサイトで新聞記事を見ていた。その中で、日本から中国への支援物資の箱に記された味わい深い詩句が人々の感動を集めた。例えば、中国語検定試験「HSK」の日本事務局が湖北省の大学に送った支援物資の箱には、「山川異域 風月同天」（山や川国土は異なろうとも、風も月も同じ天の下でつながっている）という文字が記されていた。日本国民の中国への関心と慰めはそのたった 8 文字だけで十分伝わってくる。また、中国は防疫に一定の成果を収めた後、他国への対策支援をはじめた。鳩山氏が言うように、組織と組織、国と国の間にも友愛があるべきだ。それを通じて、国に関わらず、人類は運命共同体のような存在であり、仲間としてお互いに支えるべきだということが分かった。

そして、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、防疫のボランティアが徐々に必要になってきた。北京語言大学の一部学生と教師はボランティアとして積極的に対策活動に参加した。感染のリスクはあるが、友人の張辰南は躊躇いがなく、コミュニティボランティアの一環として、市民に対する検温の実施、新型肺炎の対策方法を説明するなど数々の有意義なことを行っていた。彼らの心には友愛というものがああり、周りの人に関心を持ち、人々に最善を尽くす英雄であるといっても過言ではない。

鳩山氏の講演のおかげで、友愛には非常に大きい力があるということが分かった。友愛は絶対曇のように遠いものではない、空気のように生命に必要不可欠なものである。今回、国と国が協力して新型コロナウイルスの危機を乗り越えようとしている姿、自分の利益を考えるのではなく、他人と社会にとって価値のあることをする英雄の姿が忘れられない。このように、春の暖かい風のような行動は抽象的な友愛という言葉の具体的な表現である。鳩山氏が説く友愛の精神を日々の生活を通じて、今後、身近なことから実践していこうと思う。

私にとって友愛とは

侯宇楠（3年生）

私は、子供のころ母から教わった「友愛」という言葉に疑問を抱いた。鳩山由紀夫元首相の講演を聞いて、深く心をうたれた。それをきっかけにして、友愛についていろいろ考えた。小学生の時一つのアイスクリームを友達と一緒に食べたこと、中学生の時にいじめられていた同級生を友人とともに助けたこと、大学生である今日において身障者に対して平等に接し、時には手助けをすること。それらの行為は当然ながら友愛であるだろう。一方で、私は友愛とは年を重ねるにつれて深刻となり、場合によっては区別して処理することもある。私自身もたくさんの友人からの助けをもらい成長してきた。

日本に留学した当初、私は中国人留学生以外との付き合いに不馴れであった。それに、異文化の壁を乗り越えて国籍の異なる他の留学生と上手く付き合うことができるか疑問を持っていたため、自ら連絡を取るようなことは特になく、「助けが必要な時は同じ国出身の友達しかいないだろう？」と、私の考えは浅かった。ある日、留学先で学園祭が開催されようとしていた。当日の朝、友人に屋代の準備の手伝いをするを約束していたため、私は朝早く出かけた。前日の大雨で階段が濡れていた。しかし気分が上がっていた私は、そんなことを気にすることなく飛んだり跳ねたりしながら階段を降りた。案の定、靴を滑らせ階段からひどく転びけがをした。激痛が走るとともに、私は気を失いかけていた。

「大丈夫？ほうさん、どうしたの？」と、日本人学生かがたまたま声をかけてくれた。自分に起きたことを日本語で説明しようとしたが、意識がもうろうとし中国語以外の言葉が思い浮かばなかった。しかしながら、日本人学生は私の気持ちを理解してくれ手を差し伸べてくれた。少し小柄な学生は全力を尽くして私を四階の部屋のベッドまで運んでくれた。ベッドにしばらく横になると次第に意識は回復しその日本人学生に感謝してやまない。この日に異国にいる孤独さを初めて感じた。しかし、それ以上に国籍を超え、優しく勇気あ

る人からの温かさを感じることができた。

今日の話題となる”Blackout Tuesday”は、国家間・民族間で起こる差別に対する平等の声を上げることがを求めるものである。これは、まさに私が体験した国そして異文化の壁を越える友愛から成り立つものであるだろう。このように友愛とは身近な人同士の間のみで存在するものではなく、国、民族、文化と全てを超えるものである。私は、友愛とはたった一つの地球に住む皆が先天的に持つものであり、自ずから他人への心遣いをするものであると考える。

私の思う友愛

桑卓雅（2年生）

友愛は意味が豊かで、幸せを感じさせる力がある言葉である。友愛といえば一般的に、人間関係をよくするために提唱された実践理念の一つである。しかし、人間関係だけではなく、社会交流面や国際交流面などでも、友愛精神を実践に移し、協力を惜しまないことは人間社会の平和や安定に重要なことである。

言うまでもなく、自由、平等、尊重という理念が友愛精神を実践する第一条件である。

人と人との交流であれ、国と国の交流であれ、不平等な関係にある場合、共通の目的と目標を持つことが非常に難しい。そして、相手の側に立って考えられないので、共感を得ることも難しい。自由という理念を持つことができれば、問題意識が高まり、世界を構成する基本的要素として多様性も感じやすい。平等な関係があれば、対等の立場に立って、互いに理解しやすくなり、相手への関心も高まるだろう。尊重は世界を客観的に見る上で欠かせない条件である。違いに対して理解を示し、それぞれが異なる独自の方法で存在していることを受け入れ、共通点を探し合うことで、「違い」を埋められると考える。以上の三つの理念を備えるとともに友愛精神を実践することで、世界平和を築くことも可能になる。

実際に友愛精神がなければ、新型コロナウイルスとの闘いに勝つこともなく、困難も乗り越えられない。新型コロナウイルス感染症が発生してから、人々の心に不安と恐怖が生まれた。その中で4万人もの医療従事者が武漢に赴いた。彼らは家族や親友に別れを告げ、恐怖に打ち勝ち、自分に与えられた使命を全うした。患者の命を第一に考え、平等に救った姿は多くの国民の心の支えとなった。

国際の面から見れば、コロナウイルスに国境はなく、人類全体の敵であり、世界と協力し、助け合わなければならない。政治的、経済的壁を越え、コロナ対策のため各国から支援されてきた。物資を緊急調達し、企業も義援金を募り、市民一丸となって、中国をサポートしてきた。人類運命共同体を提唱している今の世界では、肩を並べて手を携えて、共同することから、難関を乗り越えることができる。今の世界は緊密つながっているので、人類共通のふるさとである地球で平和に生きていくことは共通の目標になっている。経済を発展させることは大事だが、利益をもたらすのは最終の目的ではなく、人類の生活を幸せにすることという点にある。そうすれば、友愛は単に限られた個人の生活を豊かにするだけでなく、全世界でも提唱すべきものになっている。

困難に遭遇しても、楽観的に助け合うという点では、友愛の意味が生きているといえるだろう。苦境にある人々や国に対して、対岸の火事と捉えることではなく、善意を示して、友愛精神の価値を生み出すことができる。人も国も平等に扱い、人類の命を尊重して、見知らぬ他人に対しても必要な愛を惜しまないということから、心をこめて友愛精神を実践すべきではないだろうか。

私から見れば友愛とは

許宇佳（2年生）

友愛については、前から兄弟の間にある愛のことだと思う。この意味から拡大すれば、身近な友人に対する親しみも、友愛ともいえるよう

である。先生の話を書く前には、私の友愛へ理解はこの二つの意味に限られている。

しかし、先生の話は、友愛という言葉に新しい世界の扉を開いてくださった。人間として存在する最も重要なことは自由だと思う。自由こそ一人の尊厳の基礎であり、至高の価値だと考えている。その結果、人間は自分自身の自由を守るべきである。でも、自分の自由のために戦う同時に、他者の自由を思わなくてはいけない。つまり、他者の自由を自分の自由のような大事なことにして尊重せねばならないのである。これは友愛のコアとなる。人間同士の相互尊重、相互理解、助け合い三つの原則をもって、友愛の精神を貫いて、友愛の人間関係が成立する以上友愛の社会も構築できるようになる。

社会より一層、国と国の間においても、友愛の精神がとても大事だと思う。グローバル化の深刻化とともに、いまは世界中の国々は、逆にナショナリズムの傾向がますます強まっている。ナショナリズムを抑えないと、グローバル化の成果が衰弱され国々はまた閉鎖的な個体に戻ってしまう。これは世界の発展にはよくないと強く思っている。世界が緊密につながっている時代においては、どちらの国でも孤立することができないだろう。したがって、国同士の間には友愛精神を貫いて助け合うことが重要である。

中国と日本は、一衣帯水の隣国であり、歴史上の交流も絶することはない。しかし、いま両国の関係は何となく迷宮に困らせているような感じがしている。日本の価値観外交の影響を受けて、中日の間に理解や尊重や助け合いがなかなか見えなくなる。実際に、友愛の視点から見れば、体制のずれや価値観の違いがあるこそ両国は助け合うべきではないだろうか。お互いに異なるところを認めて、対立よりは協調や合作や助け合った方がよいではないか。

私は、先生が主張している友愛の精神と、習近平主席が取り上げた「人類運命共同体」の思想とは共通点が多くあると思う。また、先生のアジア共同体の構想は、習近平主席の「一帯一路」のイニシアチブにはコアが一緒ではないかと考えている。東アジアでも全世界でも、国と国の違いを認める以上、友愛の三原則を貫き、「小異を残し大同

につく」のように命運共同体を作れば、この世界は今より良いと信じている。

千年に咲いてきた花

—友愛についての作文
李嘉名（2年生）

（一）

千年前の盛唐時代、洛陽の都で、ボタンが満開になっていた。花に囲まれて、詩人王維と遣唐使阿倍仲麻呂はお互いに別れを惜し見ながら最後の別れをしていた。『晁さん、残ってもらえないでしょうか』『国を離れてもう数十年間、両親のことを気にかけていますから... 首をあげて東天を望めば、神は馳す、三笠山頂の上、思ふ又た皎月の円なるを。今ちょうど使節として国へ帰ります。李白さんがここにいないと残念ですね。』『そうですね。晁さんは日本に帰ったら再会もできないかもしれません... 国に向かってただ日を見る、帰帆ただ風に信す！』

東海は風も波も強くて阿倍仲麻呂が亡くなったことを聞いた李白はつらくてたまらなかった：『明月は帰らず碧海に沈み、白雲愁色蒼梧に満つ！』。ところで数年後阿倍仲麻呂は何度も遭難してようやく中国に戻って来た。これは天意だろうか。友愛は国籍や文化を問わず永遠に続くものだ。

（二）

数年が経って、日本では、桜が満開になっていた。ある失明したお年寄り花びらの中でそぞろ歩いていた。そちらは鑑真和上だ。鑑真和上は何度も遭難しそうになって、失明までして日本にたどり着かれた。知らない異国で鑑真和上は自分の博学と寛容で周りだけではなく社会にも影響を与えて、仏教の善の花を日本に咲かせた。仏教が盛んなところで、山川域を異にすれども、風月空を同じうす。東海を超えて日本に伝えられたのは文化、交流の中にあっただけで、お互いの尊重と助けだ。

（三）

2020年、武漢の東湖で、桜は満開になっていたが、観光客は見えなかった。新型コロナウイルスの感染症が広がっていた。自然に向き合ったとき人間は小さくて弱い。しかし、人間は狭い認知を捨てて友愛と団結でお互いに助けあえば、人間は必ず強くて偉大だになれる。そこで、無数の医療物質は東海を超えて、日本から中国に輸送された。『外に出る時戻る時も互いに友人のように接し、共に見守り助け合おう』、『道義は人を遠ざけない、人には国の違いなどない』という言葉がある。友愛を通して、勝利の兆しが見える。

(四)

友愛の花は千年にわたり咲いてきた。苦難や戦火をなめ尽くした。冬は終わらないことはない、冬が暮れて春が来ると友愛の花は必ずもっと盛んになると思う。全部の傷は友愛に癒されることができる。苦難が終わったら、幸福や平和はとりわけ貴重になるはずだ。

北京語言大学の講堂で元気がみなぎっている先生は『お互いに尊重して、お互いに理解して、お互いに助けて』と提唱している。これはこそが友愛溢れる社会はずだ。

友愛の花はこれからの千年も咲いていくだろうか。

* 詩句の訳文はウェキペディアを参考した。

私にとって友愛とは

李樂怡（2年生）

今のインターネットは、ある説によって、六人の人にメールを送ったら全世界の誰とも連絡が取れるという特色があります。つまり、現代の科学技術の発展と共に、全世界の人々と接する機会が増加し、遠い国の方と交流する機会も増えました。そのおかげで、趣味が合っている友達と出会うのもますます容易なことになりました。でも、このような時代に生きているからこそ、国や社会の範囲だけで友愛精神を持つのはいかないのです。インターネットの世界でも、友愛精神を持つのは一大事だと思い、さらなる進化した友愛を目指す必要もあ

ります。なぜなら、インターネットは国や組織の壁もなく、最大限で友愛精神を高揚できる場所である一方、矛盾も起こるがちということです。

インターネットで心の距離は縮められるけれど、物理的な距離は無視しようと思っても簡単に無視できることではありません。生まれつきの観念の差別と育った環境の相違点によって、人々の価値観もなかなか一致できないのです。このような問題を面する時こそ、怯えずに真摯に交流するのは、この時代ならではの友愛だと思います。

積極的に会話を開始し、はっきりと自分をアピールして、個性的な人々と友人になれると同時に、自我を没却する可能性も低いです。もちろん人の個性を重んじることも大事ですが、まずお互いの相違点を話し合い、「違うのは恥べきことじゃない」という相手を尊重したい気持ちを伝えることが第一歩だと思います。言葉で表すというより、友愛な雰囲気を作り上げ、日常に浸潤し習慣になるのは、究極な友愛精神だと考えています。

友愛精神を世界中の人々の心魂に徹すれば、無碍にコミュニケーションすることや分かり合うことも容易にできるようになります。時代の流れと共に、インターネットをちゃんと利用して一生の友達を作ることは、自分をもっと楽に生活できるためだけではなく、国の間の架け橋にもなれます。全世界の人々が協力し、お互いのことを尊重しながら、より深く理解できれば、友愛精神が溢れている世界が作れます。つまり、インターネットが高速発展しているこの時代こそ、友愛精神の重要性に着目するのが大事なことで、その友愛精神を貫徹する第一歩は、コミュニケーションであります。

鳥だったら

張国成（2年生）

鳥になればいいのに、と常に思う。なぜなら、鳥になれば空を飛び、この人間社会から逃れることができるからだ。言葉の暴力、差別

と攻撃、利益を求め合う関係は煩わしくて嫌になる。

鳥だったら、誰に気を遣うことなく自由に歌える。「下手だな」、「スタイルが嫌い」、「こうやって歌えばいいのに」と言いながら飛んでくる鳥はいない。だが人間は常に自分の観点で他人を判断し、「こうすべきだ」と言う。時には言葉の暴力で相手を傷つける。人は皆、それぞれの経験や性格の違いから様々な観点があるため、相手のことを考えず価値観を押し付けるのは非常に失礼であることを鳥は人間より理解している。

鳥だったら、違う種類だからといって差別することはない。黒い鳥であろうと白い鳥であろうと、オス鳥であろうとメス鳥であろうと、みんな同じだ。色や性別が違って関係なく、ほかの鳥からこれを理由に攻撃されることもない。それに対し、性別や人種の違いで人間はお互いを差別や攻撃までするのは、悲しいことだ。

鳥だったら、国境がなくなる。人類は元来、国があれば管理も良くなり、皆で協力し、より良い方向に進むことができるはずだが、国々がおかしくなっていることに気づいたのだろうか。国家に付随する政治や経済、技術など、社会の進歩のためにあったものは国家間の争いの武器になり、友好であるべき関係が利益を求め合う関係に変わってしまった。

言葉の暴力、差別と攻撃、利益を求め合う関係は煩わしくて嫌になる。私にとって「友愛」は、お互いに迷惑をかけず、違いを尊重し合うのが「友」、お互いを思いやり、誠実な関係を築くことを「愛」と考える。鳥でさえ「友愛」をよく知っているにもかかわらず、丈夫な手足と発達した頭脳を持っている人間は、常にお互いを傷つけ合う。人類は前進していく中で、何のための知恵なのか、誰のための文明なのか、というような問題を常に「鳥だったら…」と考えなければならない。



左のu (ユー) と右の i (アイ) でユーアイ (友愛) です。これは英語のユー (Y o u あなた) とアイ (I 私) に通じ、全体の形は、We (私たち) の w であり World (世界) の w です。あなたと私、私たちが友愛の世界を目指しましょう！

公益財団法人 友 愛

<https://yuai-love.com>